

本邦産ハムシ科覺書(第三)

湯 淺 啓 温

1. *Xanthonia placida* BALY キカサハラハムシの食餌植物

昭和5年當時鳥取縣廳に居た馴松市郎兵衛氏から同縣八頭郡散岐村で桑の新芽を害してゐたといふハムシの1種を送つて來た(標本は同年6月24日採集のもの)。査定の結果は表題の種と判明した。この種はBALYが長崎産の標本から記載してこのかた誰も研究するものがなく、生活史などは全く判つてゐない。鳥取縣でも成蟲の加害が觀察されてゐるだけである。其後昭和6年九州帝大農學部の堀浩氏からも同年7月8日筑前立花村採集のこの種の成蟲を送つて來た。之は「柑橘の害蟲」とあるが、何處を食ふのか判らない。なほ本種は之と同じく桑樹を害する *Demotina decorata* BALY カサハラハムシに一見似てゐるけれども、體背面に生えてゐる毛が後者では鱗片状なのに前者では普通なので區別できる。

2. *Puria variabilis* BALY ヒトミヒメサルハムシの食餌植物

この種については私が初めて梨の害蟲として記録して(昆蟲、II, 1927, p. 131)以來、高橋獎氏が其の著「蔬菜害蟲各論」下卷、1930, pp. 548-549, figs. 286 & 287 に成蟲の形態・加害・分布・驅除豫防法を簡単に記述されただけである。私は前報を出した後埼玉・静岡・奈良・石川の諸縣から種々の報告を受けてゐるので、一部は高橋氏の記述と重複するものがあるけれども、茲に一括して報告しておかうと思ふ。

埼玉縣安行地方の梅に本種の加害することは昭和3年夏當時同縣廳在勤だつた宮崎來氏から送附の標本で初めて判つた。そして、氏は梅屋の談と氏自身の觀察とを詳しく報道してくれた(同年7月4日附)。それに據ると、最も加害の多いのは梅の盆栽植のもので、採集地の梅屋の話に依れば以前はこの葉蟲は居らなかつたが7-8年前(確かではない)東京在の梅屋から梅の盆栽を預かつたことがあつて、それに依つて傳はつたものゝ如く、其後年々發生を見るに至つたといふ。成蟲の加害は5月中旬頃から始まり、8月上旬頃は非常に減じ、6月中下旬から7月上旬が最盛で、宮崎氏は7月2日多數の成蟲を採集し且食害の

葉を多く認めた。多分1年1回の發生で、10月中頃には幼蟲を認め、2-3月の交に至れば鉢の底に近い根の間に於て蛹及び幼蟲を認める(この時期に植ゑかへ等の際發見)と。肥料として有機質(主に堆肥)等を施用のものや鉢植の梅を植ゑかへずに2ケ年も置いたものには發生が多く、移植を行つた鉢のものは少いと。植ゑかへの關係は、この際根元に棲息してゐる幼蟲が減少するに依るのだらう。植ゑかへても根廻りの土は残るから、實際に幹に接した部分に成蟲の脱出孔を多く認める。脱出孔は圓形で、徑2mm.位、多いものは1鉢に二十數個も發見するといふ。

静岡縣立農事試験場の矢後正俊氏の手紙(昭和3年6月25日附)に據ると同縣では當時三方原(濱名郡・引佐郡)にのみ見受けられ、成蟲は梨の葉面のみならず果面をも食害して被害相當大、梨以外にも食害する植物(桃?・柑橘?)ある由なれども未調査といふことであつた。

奈良縣立農事試験場の三島良三郎氏の通信(昭和5年6月16日附)に據れば、ヒトミヒメサルハムシは同縣下にも産し、且同地では桃の葉を食害することが判つた。場所は畝傍町在農事試験場桃園及び生駒郡矢田村當業者の桃園。加害は園内中央に多くて周圍に僅少、葉のやゝ硬化したものを害して新葉は害せず、1枚の葉では中央より先端を害する。被害は甚しいものではなく、僅に果實の生育を不良ならしめるといふ。

昭和6年8月4日附石川縣立農事試験場からの照會によつて、本種が同縣石川郡額村で華樹の葉の表皮を食害し、甚しければ落葉することが判つた。

以上によつて、本種の分布としては九州(長崎)・本州(鳥取・奈良・石川・静岡・東京・埼玉)・シベリヤ、成蟲の食物としては梨(果面も)・莓・梅・桃・華樹等イバラ科植物の葉、幼蟲の食物としては梅の根が判明した譯である。

3. *Basilepta fulvipes* (MOTSCHULSKY) アラパネサルハムシの食餌植物

この種の食餌植物についても前に一度記したことがある(昆蟲, II, 1927, p. 131)が昨年6月下旬静岡縣三保松原で本種の成蟲が多數イチジクの葉を食害してゐるのを見た。被害葉は地面(芝生)に垂下つた枝上のものだけで、葉面に多數の小孔狀食痕を作り、甚しいのは焼いたやうになつてゐた。

なほ、前報で本種がブドウも食するやうに記したが、之は觀察者が *Scelodonta Lewisii* BALY ドウガネサルハムシと本種とを取違へたものらしいから一

應取消しておく。

4. シマサシガメ葉蟲を捕食す

1932年6月19日東京府下國立でハンノキの葉上に *Melasoma aenea* LINNAEUS
ルリハムシの成蟲を捕食してゐる *Sphedanolestes impressicollis* STÅL シマサシガ
メの成蟲を觀察し採集した。勿論捕食と云つてもシマサシガメがその口吻を
ルリハムシの體に刺込んで體液を吸つてゐた譯である。

5. *Phyllotreta ochripes* CURTIS 本邦に産す

本種は本邦に普通に産するキスチノミハムシ *Phyllotreta vittata* (FABRICIUS)
に似てゐるが、前脚が全部黄色を呈する(後者では全脚黒色)ことに依つて容易
に判別できる。そして、本種は WINKLER の Cat. Col. reg. palaeart., Pars 11,
1930, no. 4676 に據ればヨーロッパ・アジアから本邦にも分布してゐることにな
つてゐるけれども、未だ一度も本邦の文獻で取扱はれたことはないやうである。

私は1924年5月15日青森縣弘前市の公園でこの種と思はれるものを自身
3頭採集したことがあり、又昭和6年茨城縣立農事試験場の澤良三氏が冬季田
の畦土中から得られた1頭を見た。茨城産のものは特に其の翅鞘の斑紋に於て
大分異つてゐるが、どうもこの種らしく思はれる。

上記の標本は更に精査の上再び記述の機があらうと思ふが、こゝでは表題
の種の本邦に産することのまづ間違ないことだけを述べておく次第である。